高等学校芸術科（書道）採点基準

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号			正　答〔例〕	採点上の注意	配点
一	問一	ア	だいうてい		各2×5
		イ	もうてん		
		ウ	すいしひょう	すいしのひょう　もよい。	
		エ	おおじょうむ		
		オ	こうきじてん		
	問二	ア	硬い毛と柔らかい毛を混合して作った筆。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なっていてもよい。	各3×5
		イ	日本語の表記のために、漢字を表音文字として用いたもの。		
		ウ	秦の始皇帝が李斯に命じて六国文字を改易させた標準書体。秦篆ともいう。		
		エ	楷書で、向かい合う二本の縦画の中ほどが外側に膨らんだ字形。		
		オ	紙の折り目を筆が横断し、節のような筆画となって現れた部分を指す。		
	問三	ア	呉昌碩		各3×3
		イ	太宗	李世民　もよい。	
		ウ	褚遂良		
	問四		季　元　付　平　望		各2×5
	問五	ア	素紙		各3×3
		イ	断簡		
		ウ	藤原行成		
	問六	ア	図版　②	2つとも合っているものだけを正答とする。	3
			理由　詞書が書いてあるから。		
		イ	直線的で細く鋭く流麗な線質である。筆に任せて速く書いているので、連綿字数が多く、こだわりがなくさわやかに感じられる。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なっていてもよい。	3
		ウ	み　ゆ　る　ひ　と		各1×5
		エ	曽　良　乎　奈　可　女　無		各1×7
		オ	紅葉を見ながら秋の間は暮らしていました。冬になった旧暦十月の今は時雨の降る空を眺めていますよ。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なっていてもよい。	3
	問七	ア	書は、趣を得るように学ばなければならない。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なっていてもよい。	各5×2
		イ	朱で書く際には、とくに細身に書くと出来栄えが良い。		

８４

高等学校芸術科（書道）採点基準

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号			正　答〔例〕		採点上の注意	配点	
一	問一		・点画や字形が曲線的である。 ・点画が連続することがある。 ・点画が省略されることがある。 ・点画の方向や形が変化することがある。 ・収筆が変化することがある。 ・楷書とは筆順が違うことがある。		３つ書かれていればよい。 内容を正しく捉えていれば、表現は異なっていてもよい。	各２×３	４６
	問二	ア	屏風の色紙形に揮毫した際の下書き。		内容を正しく捉えていれば、表現は異なっていてもよい。	２	
		イ	小野道風			２	
	問三		運筆	・入念な運筆である。 ・遅速緩急がある。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なっていてもよい。	各２×３	
			線質	重厚な線質である。			
			字形	端正な字形である。			
	問四		特徴が捉えられている点	・丸みのある起筆で入念な運筆であること。	問いを正しく捉えていれば、内容は異なっていてよい。	各２×２	
				・文字の中の空間を広くとっていること。			
			改善すべき点	・「春」の１、２画目、「花」の草冠の部分、すなわち文字の書きはじめを重厚な線にするために、墨量を多くし、鋒全体の弾力を生かすこと。		各２×２	
				・「花」の最後の二画で筆脈の連続性をより意識すること。			
二	問五		書きたい言葉	未来へ向かって歩んでいこう。	問いを正しく捉えていれば、内容は異なっていてよい。	２	
			表現の意図	ゆっくりと着実に歩み、未来へ向けた広がりにつながるよう、重厚さと緩急の変化を織りまぜ、空間を広くとること。		２	
			表現の工夫	・にじまない紙を用い、輪郭を明瞭にし、文字の中の空間をくっきりと見せる。 ・羊毛、中鋒を用い、弾力と膨らみのある線、及び鋒全体を生かした遅速緩急の変化による立体感、躍動感を表現する。 ・端正な字形による安定感、及び文字の中の空間を大切にし、広がりを表現する。「来」「歩」の最終画を長めにし、空間へ響かせる。 ・蔵法を用い、弾力と膨らみのある重厚な線を表現する。また、渇筆の食い込むような線を用い、遠近感を表現する。 ・茶系の濃墨を用い、豊かで重厚な雰囲気を表現し、潤筆、渇筆の対比をはっきりさせる。 ・三行で構成する。行頭・行末とも不揃いにし、用紙の上部に向かって空間が広がるように行を傾ける。「歩んで」は、渇筆を利かせる。		１０	
			模範例となる草稿	○次の点に留意して書いていること。 ・「屏風土代」の特徴を捉えて表現していること。 ・文字の大小、線の太細、紙面構成等について、具体的に表現できていること。 ・落款について、「○○書」または「○○かく」とし、落款印の位置を「印」で示していること。		８	

高等学校芸術科（書道）採点基準

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号			正　答〔例〕			採点上の注意	配点	
三	問一	ア	仏像を造った由来や発願者、製作者、結願者及び年月を記すため。			内容を正しく捉えていれば、表現は異なっていてもよい。	4	50
		イ	長楽王丘穆陵亮の夫人である尉遲が、亡くなった息子である牛橛のために造ったもの。				4	
		ウ	始平公造像記				4	
	問二		評価規準	知識・技能	・「牛橛造像記」の切れ味鋭く角張った点画と、気迫と力強さが感じられる字形など、用筆・運筆、線質等の要素と風趣との関わりを理解できる。 ・「牛橛造像記」の鋭角的な激しい用筆と明快な線質、張りのある筆圧での運筆、力強い表現の技能を身に付け、変化に富んだ多彩な点画などを表現できる。	問いを正しく捉えていれば、内容は異なっていてよい。	6	
				思考・判断・表現	「牛橛造像記」の明快で力強い方筆の特徴が表れた部分を選定し、「牛橛造像記」の書風が生きるように用筆・運筆、字形、全体の構成を考えて表現している。		6	
				主体的に学習に取り組む態度	「牛橛造像記」の特徴に基づいて幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。		6	
			学習活動	第1時	・「牛橛造像記」の書かれた背景とその書の特徴との関連を理解する。 ・「牛橛造像記」の内容を理解した上で鑑賞し、文意の内容に応じた字形、用筆・運筆、線質の表現となっていることを理解する。		5	
				第2時	・「牛橛造像記」の特徴的な部分を臨書し、切れ味鋭く角張った点画と、気迫と力強さが感じられる字形や点画の変化を感じ取る。 ・「牛橛造像記」の内容と表現を踏まえて、各自が感銘を受けた部分の語句を４～６文字程度選定し、試書する。		5	
				第3時	・各自が試書したものと「牛橛造像記」の特徴となる字形、用筆・運筆、線質の表現が対応しているかどうか比較・検討し、表現しようとしている作品の表現意図を深める。 ・各自が選定した語句の内容や風趣を理解した上で、表現を工夫して清書する。		5	
				第4時	・清書した作品の表現意図について発表を行い、互いに鑑賞する。 ・「牛橛造像記」を再度鑑賞し、「牛橛造像記」の内容と表現のつながりを確認して、各自が表現した作品を自己評価する。		5	

高等学校芸術科（書道）採点基準

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正　　答　〔例〕	採点上の注意	配点
四	書の特質に即して物事を捉える視点や考え方をいい、感性を働かせ、書を、書を構成する要素やそれらが相互に関連する働きの視点で捉え、書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化などとの関わりから、書の表現の意味や価値を見いだすこと。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なっていてよい。	２０